

江上信雄先生の東大御退官によせて

嶋 昭 紘 (動物)

江上信雄先生は昭和22年に本学理学部動物学科を卒業後、故岡田要先生のもとで無脊椎動物や魚類の性分化の研究をはじめられました。大学院特別研究生、動物学教室助手、講師を経て、昭和36年に科学技術庁放射線医学総合研究所(放医研)へ生物第一研究室長として赴任され、39年には生物研究部長に昇任。放医研では、変温動物である魚類の特徴を活かして、細胞再生系に対する放射線の作用を細胞周期との関連で解析され、世界的に高い評価を受けたユニークな成果を挙げられました。また、5年間に亘る連続観察の結果、メダカの生命表をはじめて作成され、これは今日の私共のエイジング研究の基礎になっています。昭和45年には本学理学部教授として動物学第三講座を、48年以降は放射線生物学講座を担当され、放射線生物学、生殖細胞、老化、発癌の広い分野に亘って多くの業績を挙げてこられました。その間、学生・院生の教育・研究指導と並行して、日本学術会議、学術審議会、日本学術振興会、本学評議員、

理学部長、がん対策専門家会議など、学内外の多方面で教育・研究行政に深くたずさわられ、多大の貢献をされました。

超早起(先生の言では他のヒトが遅過ぎるそうです)、超早朝出勤(上に同じ)、超甘党など、先生にまつわるエピソードは山とありますが、去る1月5日にごく内輪で先生の御還暦を御祝いした折には、140余人の老若男女が全国各地から駆けつけたことは、先生の御人柄を物語るに充分かと思えます。

4月からは、山口大学理学部生物学教室で、待望久しい山と水と緑とメダカとの生活をはじめられる御予定です。私は58年9月に先生の元へ戻ってきましたが、今日までの1年半は誠に御多忙な先生とのお付き合いで、あっという間に過ぎてしまいました。先生が新任地で落ち着かれましたら、弟子ども大挙してナンドカ屋のヨウカンでも持って修学旅行に出掛けることを楽しみにしています。

先生の益々の御健勝を御祈り申し上げます。

あなたです!

火事を出すのも

防ぐのも